

我ら 50 期 ここにあり

進むべき道を決める大切な時間

45 分授業×4 時間で給食を頂いて下校するこの 1 週間は、人生の方向を決める大切な時間です。自分と家の人と自分の可能性と将来性を話し合っ進むべき道を決めていく時間です。自分の番ではなくても、50 期生の仲間がその時を迎えているのだから、それ以外の人は家で鉛筆を握りしめて机と自分に向かってください。この時間は人生の時間です。命の時間です。



我と他人、あちらとこちら

扉やふすまが合わなくなって、開け閉めの度にぶつかり合ったりすると「ガタガタして不便だな」と思いませんか？扉やふすまの寸法が合わないと「ガタガタ」と音が鳴ります。また、強引に開け閉めをして勢いがつくと「ピシッ」と音を立ててしまいます。そんな音を拾って上手くいかずにわずらわしい様子を表す「ガタピシ」という言葉があります。「ガタピシ」を漢字で書いてみると、「我他彼此」となって、「我」は私、「他」は他人で、「自分と他人」という意味です。「ピ」はお彼岸の「彼」で、「シ」は「此（これ）」と書きます。「ピシ」とは、「あちらとこちら」という意味です。つまり、「我他彼此」とは、自分と他人を分け隔て、あちらとこちらの繋がりを遠のけた心の様子を言うのです。そのような気持ちで人付き合いをしているとどうなるでしょう。しょっちゅう他人と衝突し、争い、いがみ合うことになってしまうでしょう。それこそ、他人との意思疎通がスムーズにいかずに「ガタガタ」とつかえたり、逆に勢い余って「ピシッ」とぶつかり合い、お互いが大変な思いをするでしょう。私たちの幸せは、「我他彼此」をこえた、その先にあります。他の誰かの喜びを、自分のことのように感じて喜び合うこと、他の誰かの辛い思いを、私のことのように感じて助け合うこと。協力し、共感し、助け合い、手をたずさえて生活していくことなのです。



時代に乗り遅れるな！時代に流されるな！



20 世紀は「成長社会」でした。高度経済成長で、物を作れば売れる時代でした。会社も電化製品もどんどん新しいものが出てきて、一度そのレールに乗れば安心して生活ができていました。“みんな一緒”で、多数の人が良いと思うものをしていけば何とかやっていけました。正解主義で、知識や「情報処理力」があり「正解を当てる力」があれば良いとされていました。その価値観はシャボン玉が弾けるように泡と消え、21 世紀は「成熟時代」と変化していきます。スマホやネットの普及により情報はあふれ、誰もが簡単に正解に辿り着けるようになりました。それによって自分の好みや考えに合うように「情報を編集する力」が必要になってきたのです。修正主義で多くの人が認める「納得解をつくる力」、「みんな一緒」から“それぞれ一人ひとり”という価値観にシフトチェンジしていくのです。例えば、テレビや電話という媒体で考えてみましょう。昔は一家に一台でみんなが集まる場所にあってチャンネル権を争って喧嘩したり、かかってきた電話の会話はみんなに筒抜けでしたが、今や一人一台で自分が好きな時間や場所でテレビを観たり電話をかけたりできます。他にも、結婚式の引き出物は値段によって相場が決まっていた食器や日用品だったのが、今やカタログギフトで自分が選んで送って来てくれる時代です。型にはまりレールに乗った“みんな一緒”から、多様なニーズに答え個性を重んじる“それぞれ一人ひとり”というように考え方や生活が大きく変化していると言えます。そんな時代の変化の中で大切になってくるのが、『つながる心』と『つなげる力』です。いくら個性が尊重されるといっても、人間は人間の社会の中で生きている以上、一人で生きている訳ではないのですから、個人の自分勝手やわがままは許されません。大切にされるべき一人ひとりが集まった社会で、多くの多様性や個性を大切にしていくなめには、一定の基準や規律、約束やルールが必要になってきます。自分一人で何をやってもいいという訳ではないのです。新しい時代は新しい時代なりのルールがあり、時代が変わっても変わらない人として守らなければならないルールもあるのです。目まぐるしく変わる時代に合った新しいルールを自分と他者や社会という視点から考えて創り出し、それを大切に『つながる心』を持ち、それぞれに発展・成長する個人をつなぎ合わせてもっと大きな成長・発展に『つなげる力』を持てる人に育って欲しいと願います。